



ユーザー向け

エンジニア転職 マーケットレポート

2023.02.実施



コロナがエンジニア転職に与えた影響、3年経過した現在の動向を分析

Findy利用ユーザーに対して、エンジニアの転職や働き方に関する意識調査としてWebアンケートを実施（期間：2023年2月15日～2月20日）。回答者のうち、エンジニア職とご回答いただいた方のみ（n=395）を対象に集計・分析を実施

- コロナ期間(2020年3月～現在まで)で、**のべ6割のエンジニアがコロナ期間中に転職を経験**。
コロナによって求職者の動きが鈍くなる様子はエンジニア転職市場ではあまり見られなかった。
- 約1割のエンジニアがコロナ前も現在もずっとリモートワークであり、
約6割のエンジニアがコロナをきっかけにリモートワークになっている。
- 現在も**リモートメインで働くエンジニアは約8割**と多いが、2022年9月時の調査と比較して
フルリモートの割合が微減傾向にあり、リモート慣れでオフラインのニーズが増えている可能性がある。
- また、一度はリモートになったが今は**出社メインの方針に切り替わったことにより**
4割強のエンジニアが転職活動へと踏み切っており、出社回帰による転職意欲への影響は大きい。

目次 | INDEX

1. 基本情報

- 年齢
- 雇用形態
- 年収分布
 - i. 年収分布×過去調査比較詳細
- 職種分布
- 役職比率

2. 転職動向

- 転職回数
- 転職意欲
- 参考にする情報源
- 転職・退職を決断するきっかけ
- 転職後にギャップを感じる場面
- 転職で最も重視する項目
- 興味のあるキャリアパス
- リモートワークの現況・希望
- 転職を前向きに考える給与UP水準
- 年収DOWNの転職への抵抗
- 転職時に詳細を知りたい項目
 - i. 【参考】Web系企業エンジニア

3. コロナ禍動向

- コロナ期間中の転職活動
- コロナ前後での出社方針
- オフィス出社回帰による転職意欲への影響

4. 人気・トレンド調査

- 興味のある企業タイプ
- スタートアップ転職で解消したい不安要素
- 働いてみたい企業20選
- 注目している技術や業界のトレンド

5. 技術

- 使用言語・技術
- 今後習得・強化したい言語
- 言語別平均年収ランキング
- JavaScript, TypeScript 使用者への設問
 - i. 使用技術
 - ii. 今後習得・強化したい言語
 - iii. 使用技術別年収ランキング

6. 年収別調査

- リモートワーク×年収別
- 海外志向×年収別
- 副業×年収別

7. 編集後記

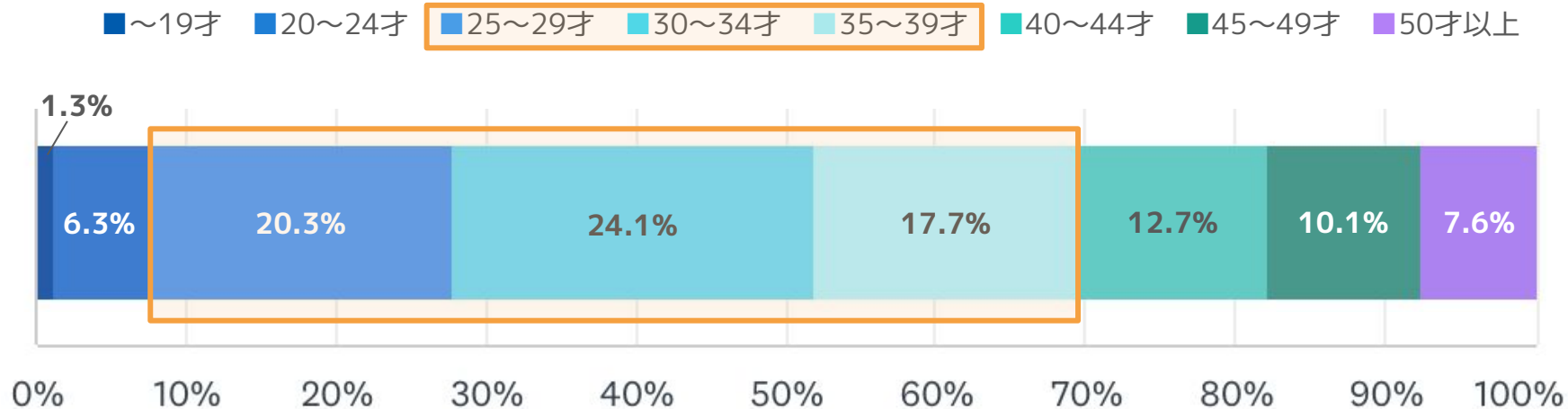
01 基本情報



年齢ボリュームゾーンは25～39才で約6割

設問

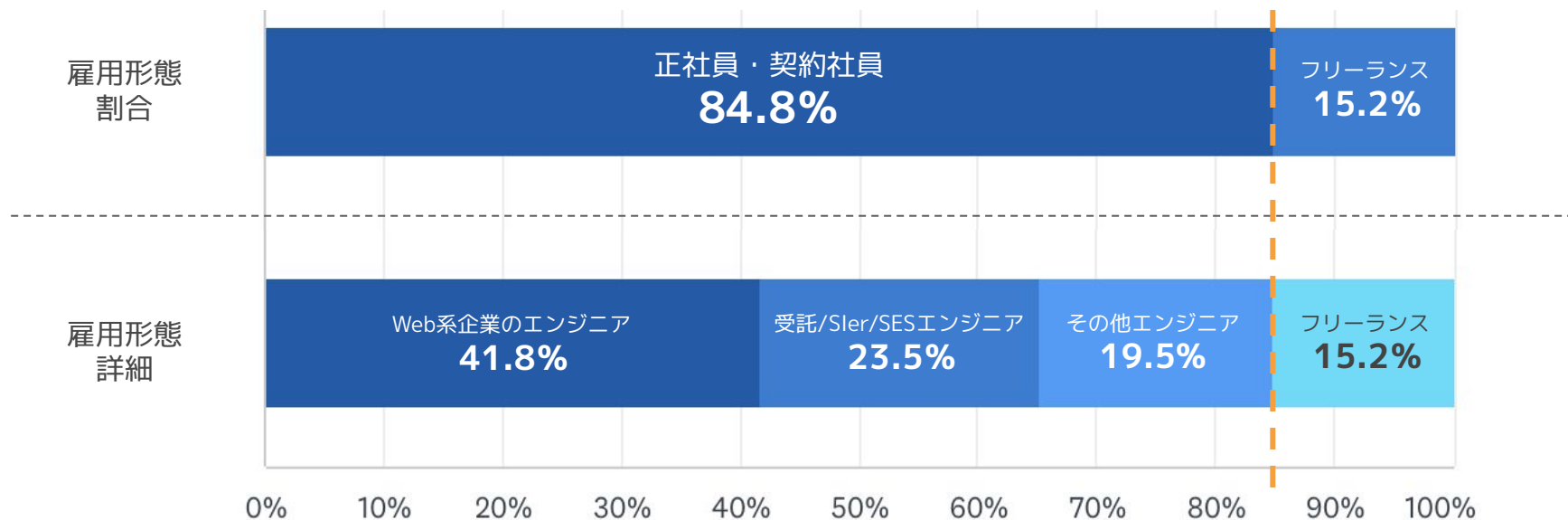
あなたの年齢を教えてください（必須）



正社員・契約社員が8割超。その内、Web系企業のエンジニアの割合は約4割

設問

あなたの職業を教えてください（必須）



年収800万円未満が約7.5割、年収800万円以上が約2.5割 平均年収は約660万円で、2022年9月調査時より約40万円UP(※)

設問

現在の年収(本業のみの収入)について当てはまるものをお答えください(必須)
手取り金額ではなく、額面上の金額をお答えください

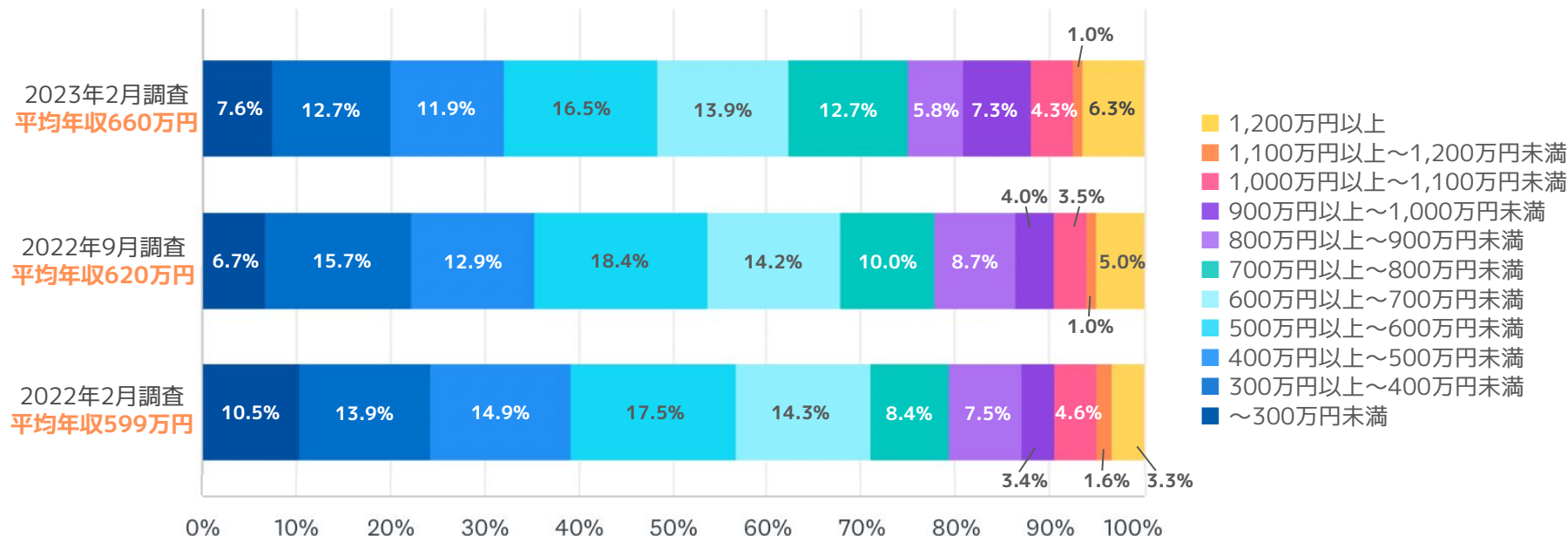


※平均年収は各選択肢別に想定年収を設定(例:300～350万円⇒325万円)して加重平均にて算出。今回調査から年収1,200万円以上も100万円ごとに選択肢を用意したがグラフ化の都合上、1,200万円以上で表記。

過去調査と比較すると、エンジニアの平均年収増加傾向が見て取れる 特に700万円以上～800万円未満の層が1年間で1.5倍近くに増加

設問

現在の年収(本業のみの収入)について当てはまるものをお答えください(必須)
手取り金額ではなく、額面上の金額をお答えください



※平均年収は各選択肢別に想定年収を設定(例:300～350万円⇒325万円)して加重平均にて算出。2023年2月調査のグラフは過去調査に合わせた年収帯の選択肢に加工して表示。

職種分布上位TOP3は、バックエンド、フルスタック、フロントエンド

設問

現在のあなたの職種として、最も当てはまるものをお答えください(必須)

① バックエンドエンジニア … 32.9 %

② フルスタックエンジニア … 14.4 %

③ フロントエンドエンジニア … 10.4 %

4 インフラエンジニア … 6.6 %

5 情報システム … 4.1 %

6 SIエンジニア … 3.5 %

6 Androidエンジニア … 3.3 %

8 機械学習エンジニア … 2.5 %

9 DevOpsエンジニア … 2.3 %

9 iOSエンジニア … 2.3 %

11 QAエンジニア … 2.0 %

11 組み込みエンジニア … 2.0 %

13 SRE … 1.8 %

13 データサイエンティスト … 1.8 %

15 テクニカルサポート … 1.5 %

16 セキュリティエンジニア … 1.3 %

16 ネットワークエンジニア … 1.3 %

16 ゲーム開発エンジニア … 1.3 %

19 データベースエンジニア … 0.5 %

19 プリセールス … 0.5 %

21 UXエンジニア … 0.3 %

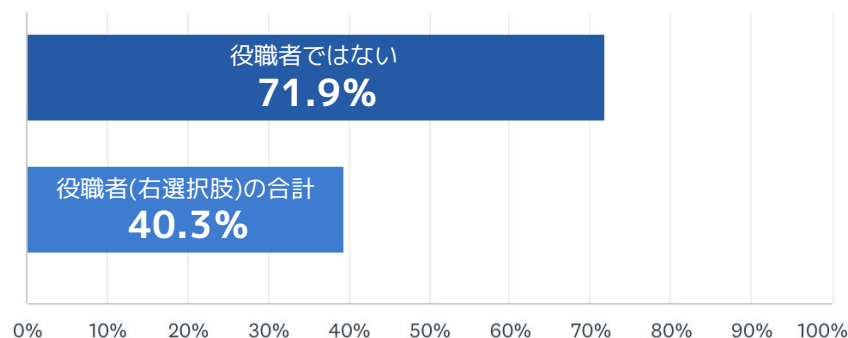
- その他 … 3.5 %

約7割が非役職者で、役職者の内訳はテックリード、EM、PjMの順に多い

設問

マネジメント職に該当する方は当てはまるものをお答えください(必須、複数回答可)

役職者割合 ※複数回答



役職者(40.3%)の内訳

①	テックリード(Individual Contributor含む)	… 11.1 %
②	エンジニアマネージャー(VPoE含む)	… 9.1 %
③	プロジェクトマネージャー	… 6.8 %
4	プロダクトマネージャー	… 5.3 %
5	CTO・技術顧問	… 2.5 %
6	スクラムマスター	… 2.0 %
7	採用PM	… 1.5 %
8	CEO	… 1.0 %
9	その他	… 0.8 %

02 転職動向



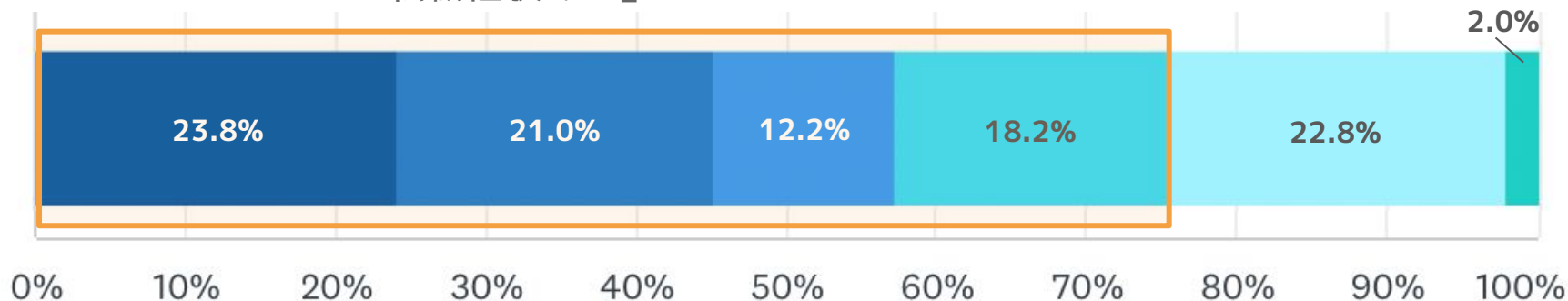
7割強のエンジニアが転職経験あり。過去調査と比較しても転職経験者比率は依然高い

設問

これまで正社員・契約社員で就業した会社の社数をお答えください（必須）

■ 2社 ■ 3社 ■ 4社 ■ 5社以上 ■ 1社(転職経験なし) ■ 0社(正社員・契約社員の就業経験なし)

「転職経験あり」が**75.2%**



過去調査との比較

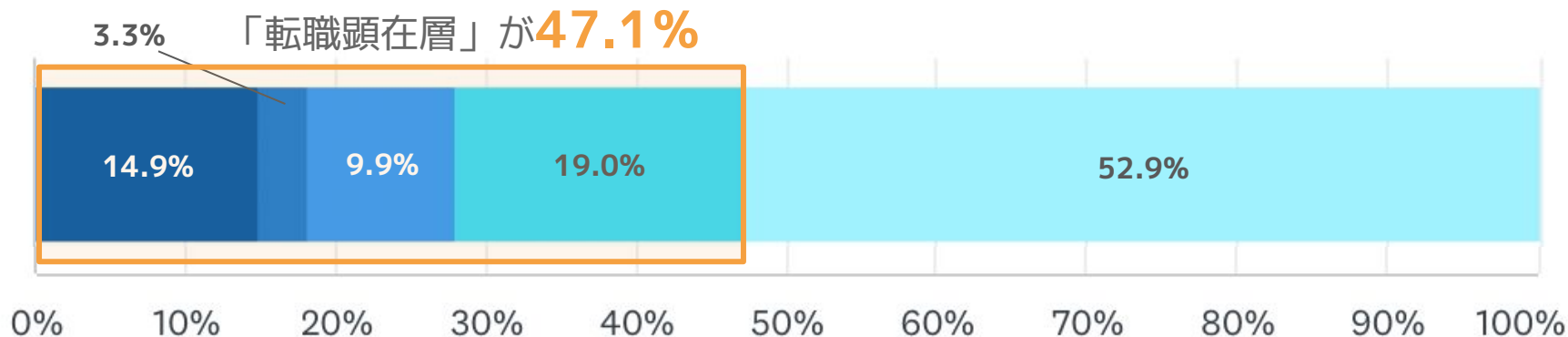
【2022年9月調査】 転職経験あり：75.6%
【2022年2月調査】 転職経験あり：70.0%
【2021年7月調査】 転職経験あり：66.0%

6ヶ月以内の転職を考えて転職活動に動いているエンジニアは約3割
話だけでも聞いてみたいカジュアル層も含むと約5割が転職を意識して動いている

設問

現在の転職意欲について当てはまるものをひとつ選んでください (必須)

■ 転職活動中 ■ 3ヶ月以内に転職したい ■ 6ヶ月以内に転職したい ■ 話だけでも聞いてみたい ■ すぐの転職は考えていない



過去調査との比較

【2022年9月調査】「興味がある」が60.7%

【2022年2月調査】「興味がある」が61.0%

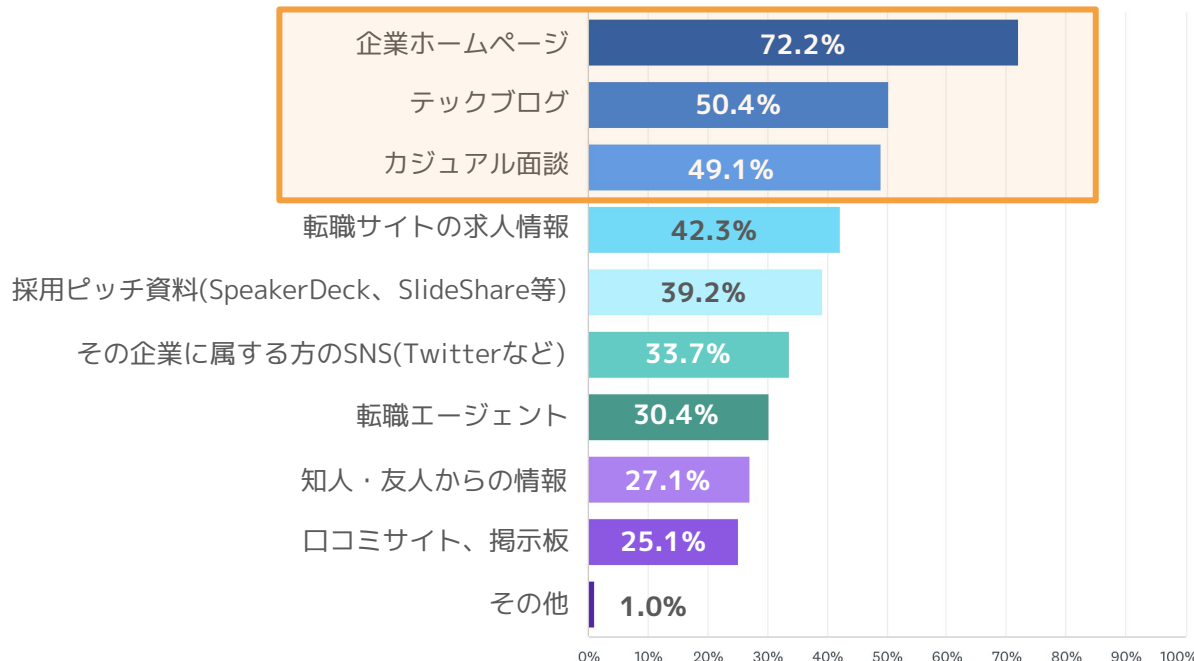
【2021年7月調査】「興味がある」が67.0%

※過去調査時の選択肢は「非常に興味がある」「やや興味がある」「あまり興味がない」「全く興味がない」「わからない」としており単純比較が困難なため、参考として記載

TOP3は「企業HP」「テックブログ」「カジュアル面談」 ChatGPTの登場により、情報収集の形がどう変わっていくのかに注目

設問

転職やフリーランスの新規案件に興味を持った企業について情報収集を行う際に、
参考にするものを全て選んでください(必須、複数回答)



企業発信による一次情報が
参考にされる傾向あり。

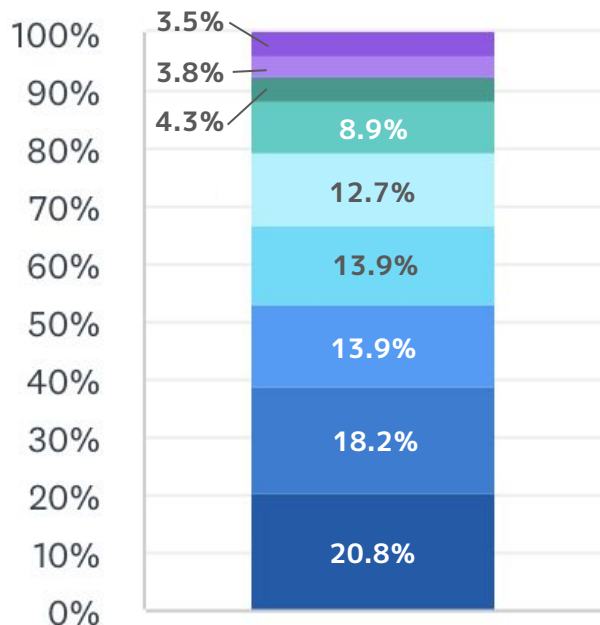
テックブログ派と同水準で
**カジュアル面談を気軽に
受けるエンジニアも多い**

また、ChatGPTの登場で
情報収集が便利になる一方で、
**“どこが発信元の情報なのか”が
今後はより重要になっていくか。**

上位は「昇給や昇進、査定評価への不満」「仕事内容のやりがいがなくなった」 「経営陣の方針や社風とのミスマッチ」「上司や同僚との人間関係」

設問

転職・退職を決断するきっかけとして、最も当てはまるものを教えてください(必須)



- その他
- 残業時間や育児への理解など労働環境が合わなかった
- 入社時から経営状況が変わった
- 開発者体験や開発生産性に不満や危機意識を感じた
- 自分の理想のキャリアを描けなくなった
- 上司や同僚との人間関係が合わなかった
- 経営陣の方針や考え方、社風が合わなくなった
- 仕事内容にやりがいを感じなくなった
- 昇給や昇進、査定評価に不満を感じた

前回調査
との比較

前回と比較してTOP3に順位の変動あり

【2022年9月調査時】

仕事内容のやりがいなくなった：25.6%

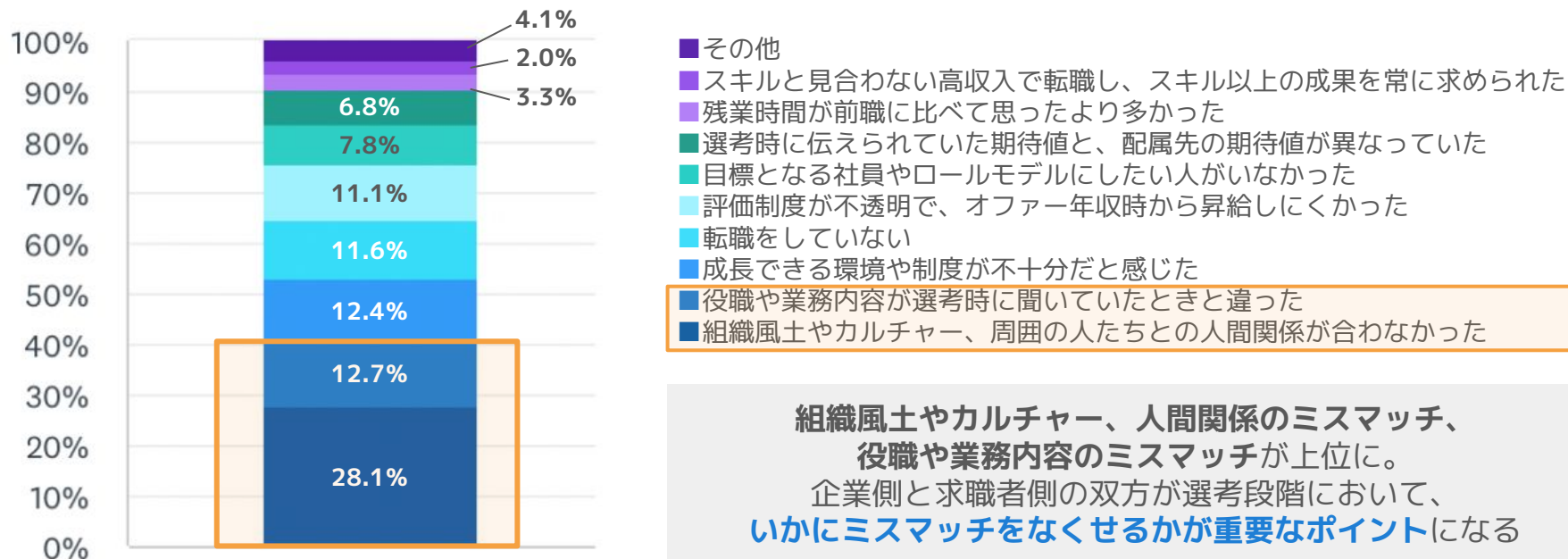
経営陣の方針や考え方、社風が合わなくなった：19.4%

昇給や昇進、査定評価に不満を感じた：16.7%

「組織風土やカルチャー、周囲の人たちとの人間関係が合わなかった」が約3割 転職・退職を決断するきっかけでも上位だった"ミスマッチ"が課題に

設問

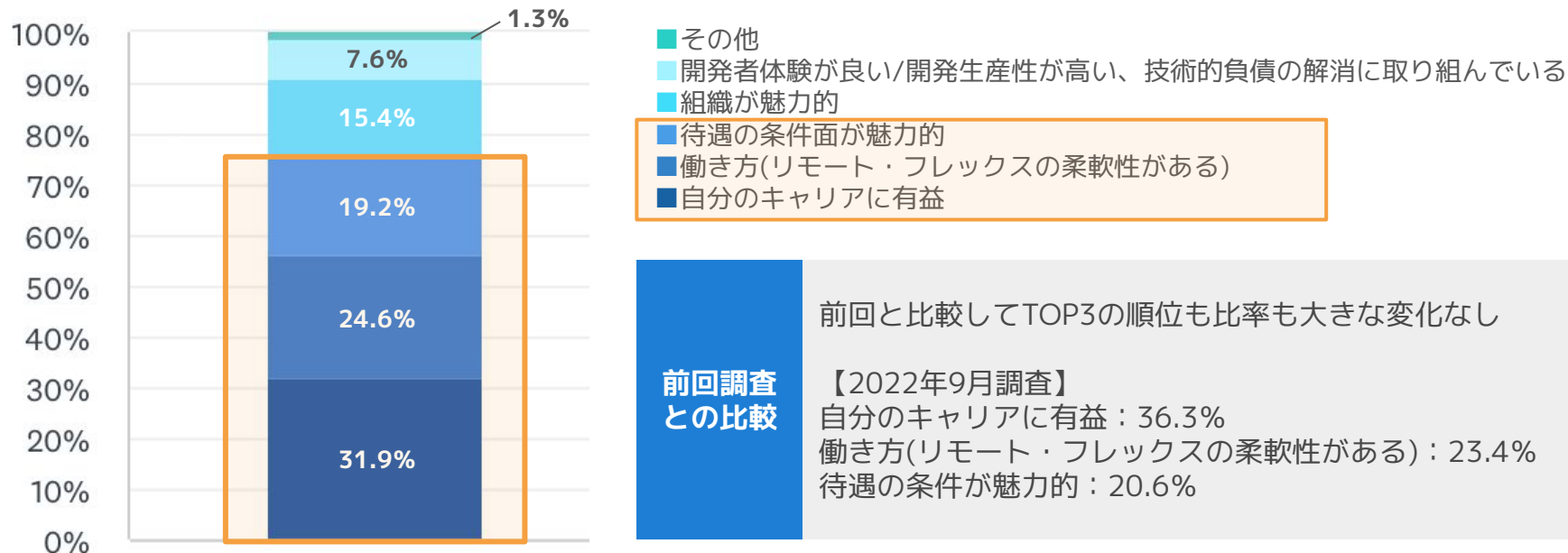
転職後に「こんなはずではなかった」とギャップを感じる場面として、
最も当てはまるものを選んでください（必須）



TOP3は「キャリアに有益」「働き方の柔軟性」「待遇の条件面」

設問

転職活動やフリーランスの案件の選考過程で最も重要視することは何ですか？(必須)



個人の技術力向上やキャリアアップを望む意見もありながら、
組織や事業の成長に貢献することが、自分の成長やキャリアに有益になるという意見も。

設問

「選考過程で最も重要視する事柄」について
できるだけ詳しく具体的に教えてください（必須、自由回答）

自分のキャリアに有益
31.9%

- 企業と同じ方向を向いて顧客への価値のデリバリーを行えるため、**企業の課題解決に向き合うことで自分のキャリアにも良い影響がある組織**を重視
- 今後のキャリアで生きる**汎用性の高いスキル**が得られるか
- 自分の成長が組織の期待と一致しているかが重要と考える

働き方の柔軟性がある
(リモート・フレックス)
24.6%

- **突発的な遅刻・早退がある程度許容されるなど育児への理解がある**
- バックアップ要員がいるor引き継ぎ先があるなど業務が属人的でない
- **フル出社ではなく、状況に応じてリモートワークと出社を切り替えられること**。基本的には**自走できるためリモートワークのほうが捗る**
- リモート勤務がメインになり、通勤時間がもったいないと思ったので

待遇の条件面が魅力的
19.2%

- **なるべく早く上げられるところまで年収を上げたいため**
- **良い条件のオファーをいただけるということは、その会社が関わっている業界が盛り上がっている**と思うので。盛り上がっている業界だとエンジニアとしてもやりがいを感じやすそうな印象がある
- 待遇は大前提。生活が安定して初めて**自己研鑽に励んで、スキルアップ**できる

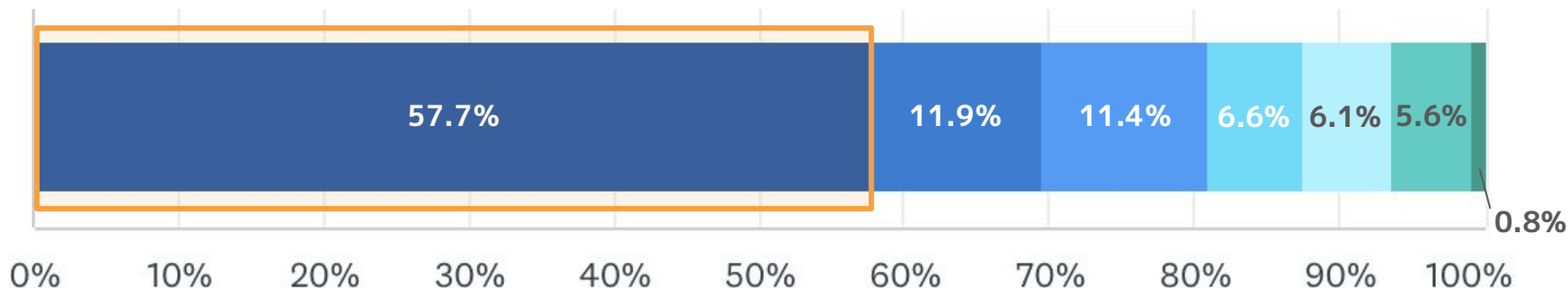
技術スペシャリストが約6割で断然人気である一方、PdMや組織マネージャーはそれぞれ約1割と依然希少な傾向が続く

設問

どのようなキャリアパスに興味がありますか？最もあてはまるものを選んでください。(必須)

■技術スペシャリスト ■組織マネージャー ■プロダクトマネージャー ■エンジニアの知見を生かした別の職種 ■起業 ■分からない ■その他

※選択肢詳細：技術スペシャリスト（例：CTO・テックリードなど、“エンジニアスキルを磨き続けて極めたい”）、組織マネージャー（例：VPoEやエンジニアマネージャーなど、“エンジニアチームを統括する役割へのステップアップに興味がある”）、プロダクトマネージャー（例：CPO・PMなど、“サービスの戦略・開発・マーケティングなどの意思決定を担う役割へのステップアップに興味がある”）、エンジニアの知見を生かした別の職種（例：セールスエンジニア、プリセールスなど“顧客と自社エンジニアを繋ぐ役割に興味がある”）



過去調査との比較

前回と前々回と比較すると**組織マネージャー、プロダクトマネージャーが希少である傾向が続く。**

【2022年9月調査】組織マネージャー13.4%、プロダクトマネージャー10.0%

【2022年2月調査】組織マネージャー14.0%、プロダクトマネージャー10.0%

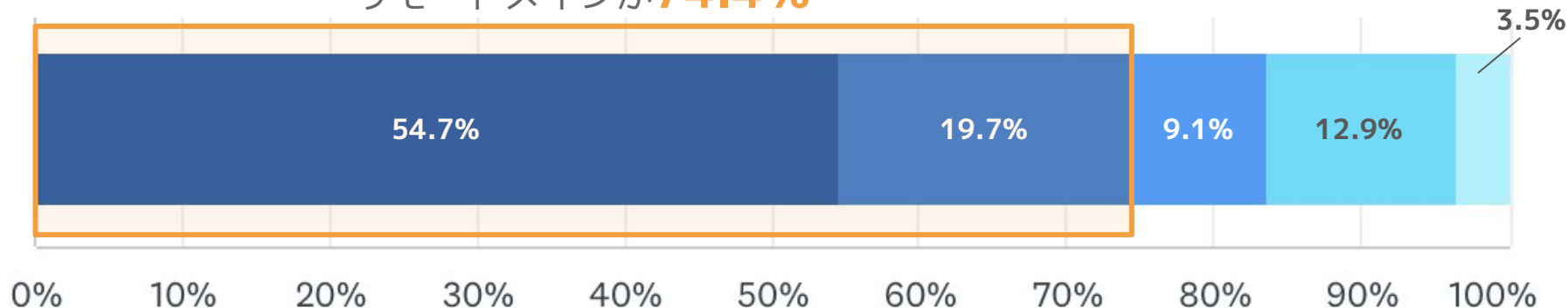
5割強がフルリモート、週1-2日出社を含めると7割強がリモートメイン。
2022年9月調査時と比較するとリモートメインの比率が少し下がっている。

設問

現在の勤務状況について、当てはまるものを選んでください(必須)

■フルリモート ■週1-2程度出社 ■週3-4程度出社 ■週5日でオフィス出社 ■当てはまるものはない

リモートメインが**74.4%**



過去調査との比較

前回と比較すると**フルリモートが約-8%、週5日出社が約+5%**という結果に。

【2022年9月調査】フルリモート:62.4%、週1-2日程度出社:19.2%、週3-4日程度出社:10.0%、週5日出社:8.2%

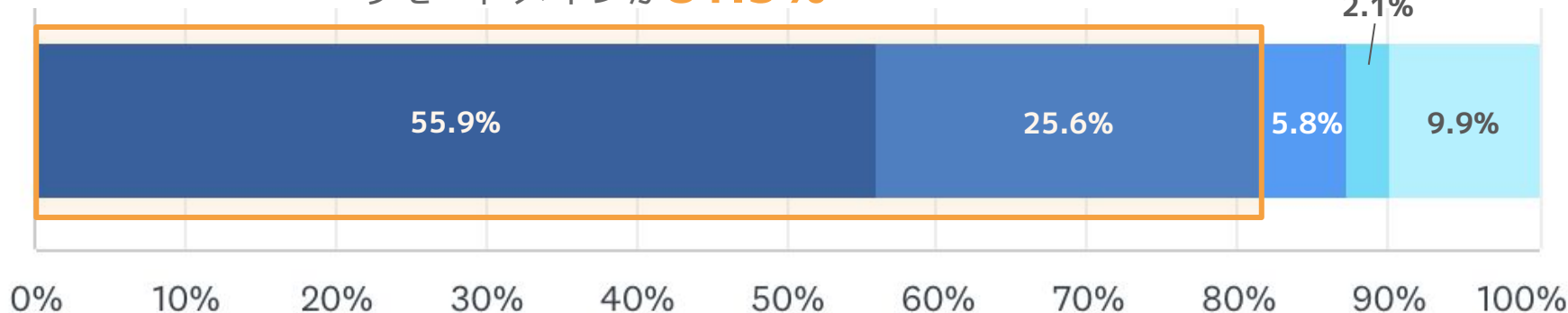
5割強が転職時にフルリモートを希望。リモートメイン希望は約8割。
2022年9月調査時と比較して、フルリモート希望者がやや減少傾向に

設問

転職に対するリモートワークへの考え方について、最も当てはまるものを選んでください(必須)

■フルリモートが良い ■週1-2程度出社が良い ■週3-4程度出社が良い ■週5日でオフィス出社が良い ■こだわらない

リモートメインが**81.5%**



過去調査との比較

前回と比較すると**フルリモートが約-5%**という結果になり、現況も希望も同様の傾向に。

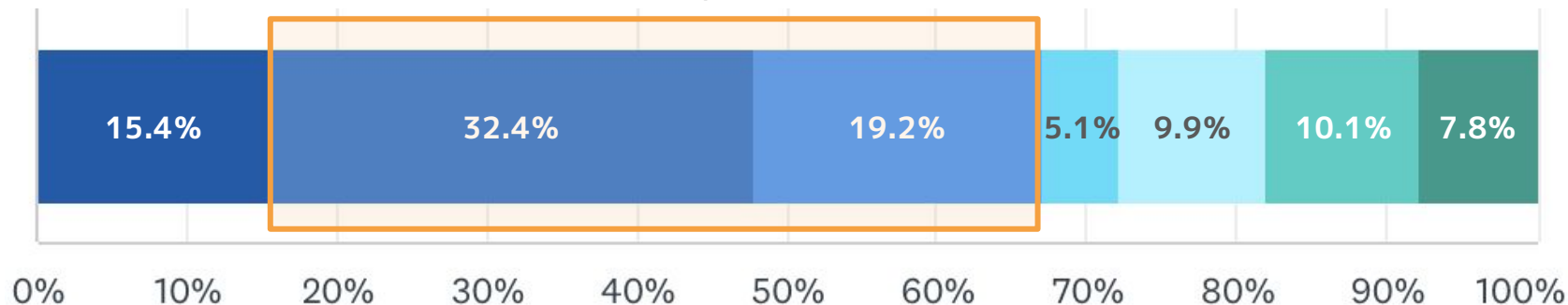
【2022年9月調査】フルリモ希望:60.2%、週1-2日希望:24.1%、週3-4日希望:3.2%、週5日希望:2.2%

現職給与から20～30%以上UPであれば転職を前向きに考える派が5割超

設問

現職給与からいくら上がれば転職を前向きに考えますか？（必須）

■ 10%以上 ■ 20%以上 ■ 30%以上 ■ 40%以上 ■ 50%以上 ■ 現状維持なら良い ■ 給与はこだわらない

20～30%以上UPを希望が**51.6%**

過去調査との比較

前回と前々回の調査時と同様に、「20～30%以上」と回答した方が過半数を占める傾向に。

【2022年9月調査】「20～30%以上」と回答した方が53.7%

【2022年2月調査】「20～30%以上」と回答した方が52.0%

現状維持での年収でも抵抗がある層が4割弱

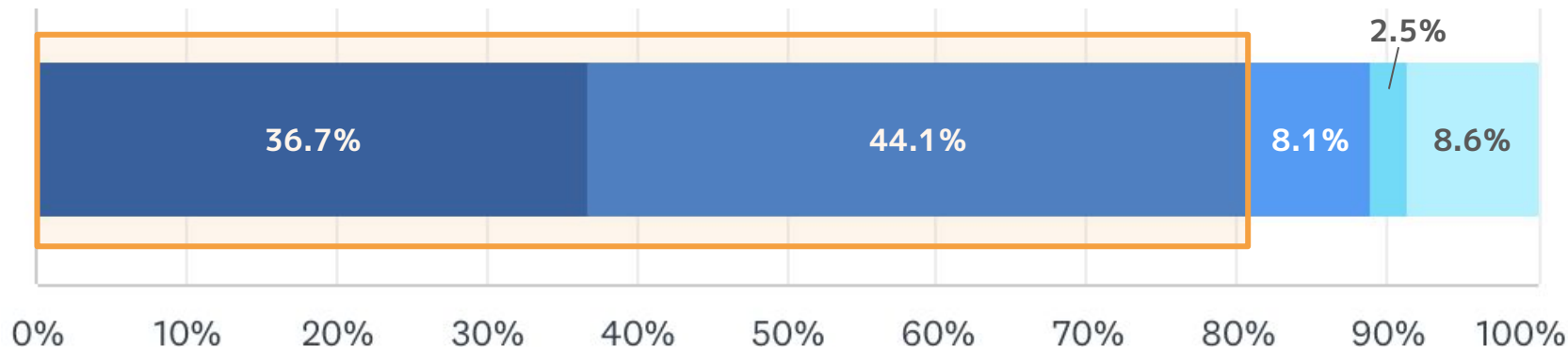
現状維持は抵抗ないが下がると抵抗がある層は4割超

設問

現職から年収が下がる転職に抵抗を感じますか？
次のうち最も当てはまるものを選んでください（必須）

■ 現状維持でも抵抗がある ■ 現状維持では抵抗がないが現状より下がると抵抗がある ■ 初年度年収10%ダウンまでは抵抗がないが、それより下がると抵抗がある
■ 初年度年収20%ダウンまでは抵抗がないが、それより下がると抵抗がある ■ 年収以外に実現したい条件があるのでこだわらない

現年収以上または最低でも現年収維持でないと抵抗がある層は**80.8%**



TOP3は「売上、利益」「開発工数(人工)」「CI/CD」

設問

もし、転職先を考える時に次の各項目の詳細を知ることができる場合、
知りたいものを最大3つまで選んでください。(必須)

① 売上、利益 … 52.4 %

② 開発工数(人工) … 36.5 %

③ CI/CD … 33.7 %

4 デプロイ頻度 … 32.2 %

5 コードレビュー依頼から完了までの時間 … 19.5 %

6 自動テストのカバレッジ … 16.5 %

7 ソースコード量(SLOC) … 15.7 %

8 ベロシティ(ストーリーポイント量) … 11.9 %

9 プルリク作成数 … 11.6 %

9 サービスレベル目標(SLO) … 11.6 %

11 変更のリードタイム … 11.1 %

12 コミット数 … 9.4 %

13 変更障害率 … 8.4 %

14 平均修復時間 … 6.3 %

15 サービスレベル指標(SLI) … 6.1 %

16 d/d/d(deploys/a day/a developer) … 5.3 %

16 1プルリクの平均変更行数 … 5.3 %

18 プルリククローズ時間 … 4.3 %

19 NSM(North Star Metrics) … 2.3 %

Web系企業エンジニアに回答を限定すると「デプロイ頻度」の比率が高まる

設問

もし、転職先を考える時に次の各項目の詳細を知ることができる場合、
知りたいものを最大3つまで選んでください。(必須)

① 売上、利益 … 49.1 %

② デプロイ頻度 … 42.4 %

③ CI/CD … 38.2 %

4 開発工数（人工） … 27.3 %

5 コードレビュー依頼から完了までの時間 … 19.4 %

6 自動テストのカバレッジ … 17.0 %

7 ソースコード量(SLOC) … 16.4 %

8 ベロシティ(ストーリーポイント量) … 14.5 %

9 プルリク作成数 … 12.7 %

10 サービスレベル目標(SLO) … 11.5 %

11 変更のリードタイム … 9.7 %

12 コミット数 … 7.9 %

13 変更障害率 … 7.3 %

13 サービスレベル指標(SLI) … 7.3 %

15 d/d/d(deploys/a day/a developer) … 6.7 %

16 プルリククローズ時間 … 5.5 %

17 NSM(North Star Metrics) … 3.0 %

18 平均修復時間 … 2.4 %

19 1プルリクの平均変更行数 … 1.8 %

Note：設問「あなたの職業を教えてください(必須)」にて「Web系企業のエンジニア」と回答した165名に限定してクロス分析を実施。

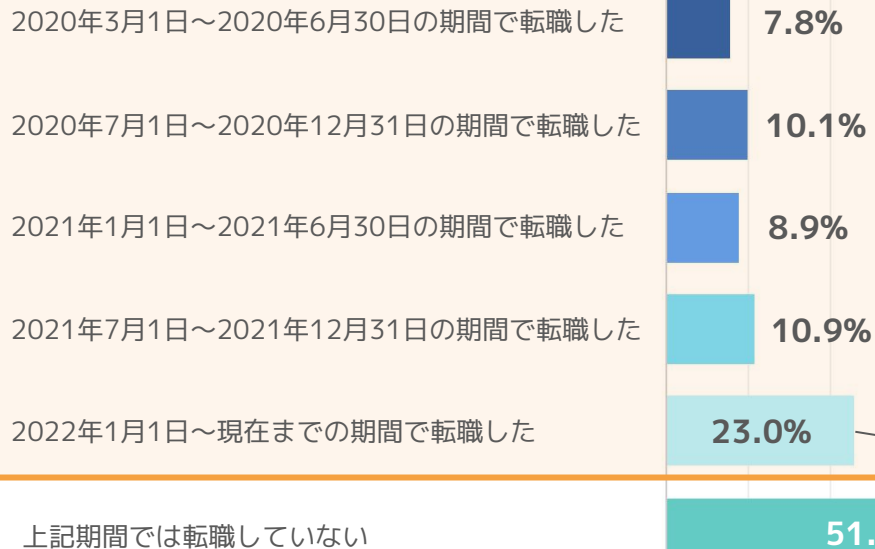
03 コロナ禍動向



のべ6割のエンジニアがコロナ禍(2020年3月1日～現在まで)で転職を経験

設問

コロナ禍(2020年3月～現在)の転職について当てはまるものをお答えください(必須、複数回答可)
※複数回転職した方は該当する期間を全てご選択ください



緊急事態宣言下、まん防下に関係なく
全期間10%前後の転職者が分布。

エンジニアという職種においては、
コロナによる大きな打撃を受けずに
転職市場は動いていたと見られる。

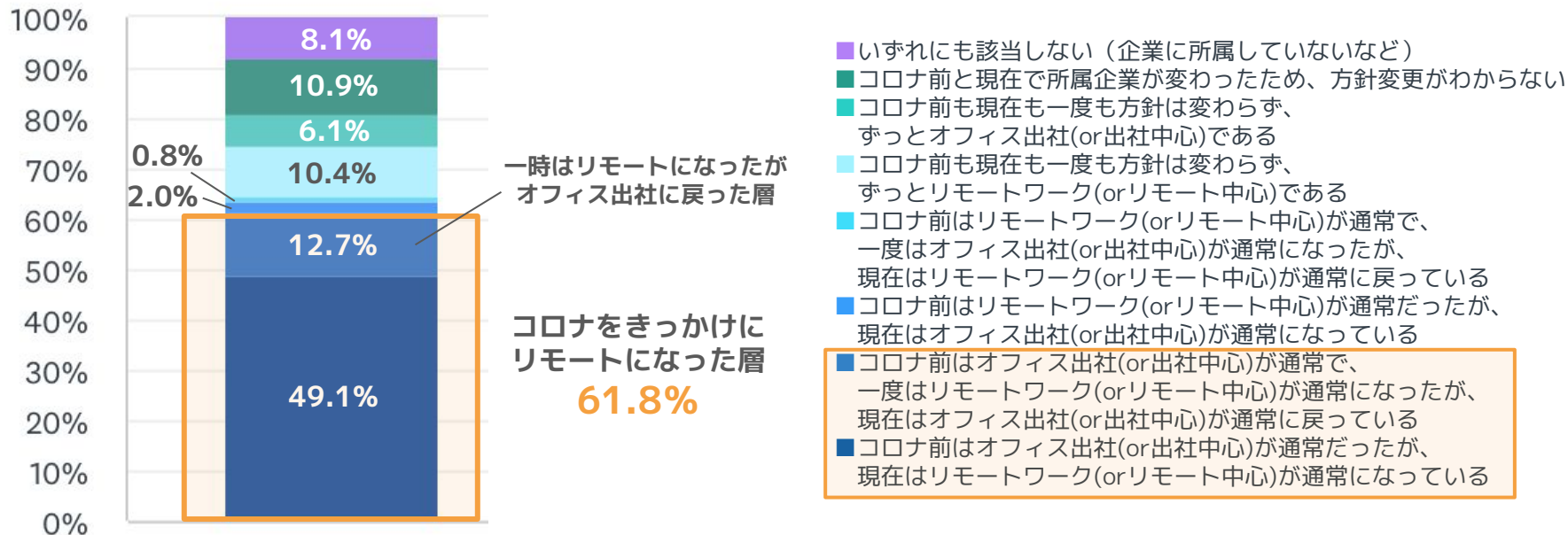
「2022年1月～現在まで」のみ期間が1年以上あり、
単純計算で6ヶ月間に均すと約11.5%に換算できる

コロナをきっかけにリモートメインになった割合は約6割

コロナで一度リモートになったが出社メインに戻ったエンジニアは1割程度

設問

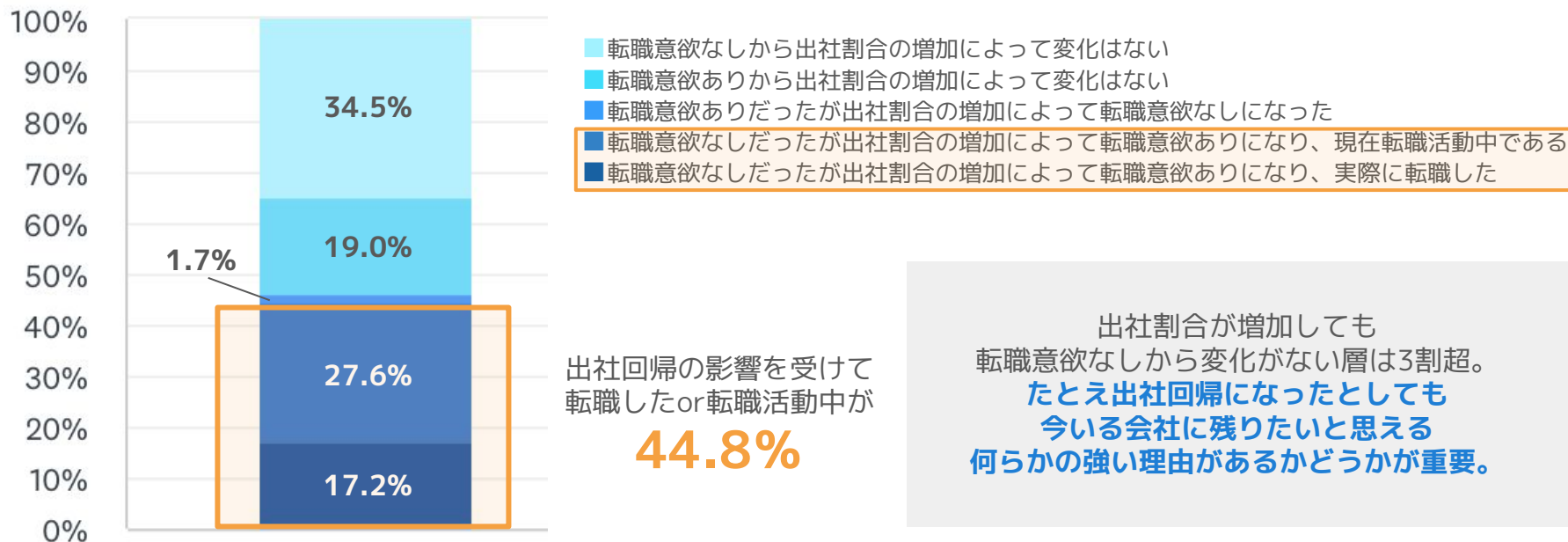
コロナ前と現在における所属企業の出社方針について当てはまるものを教えてください（必須）



4割超のエンジニアが出社回帰の影響を受けて転職活動をしている

設問

オフィス出社(または出社中心)に回帰した方に質問です。
オフィス出社の割合が増加したことによる転職意欲の影響はありましたか？(必須)



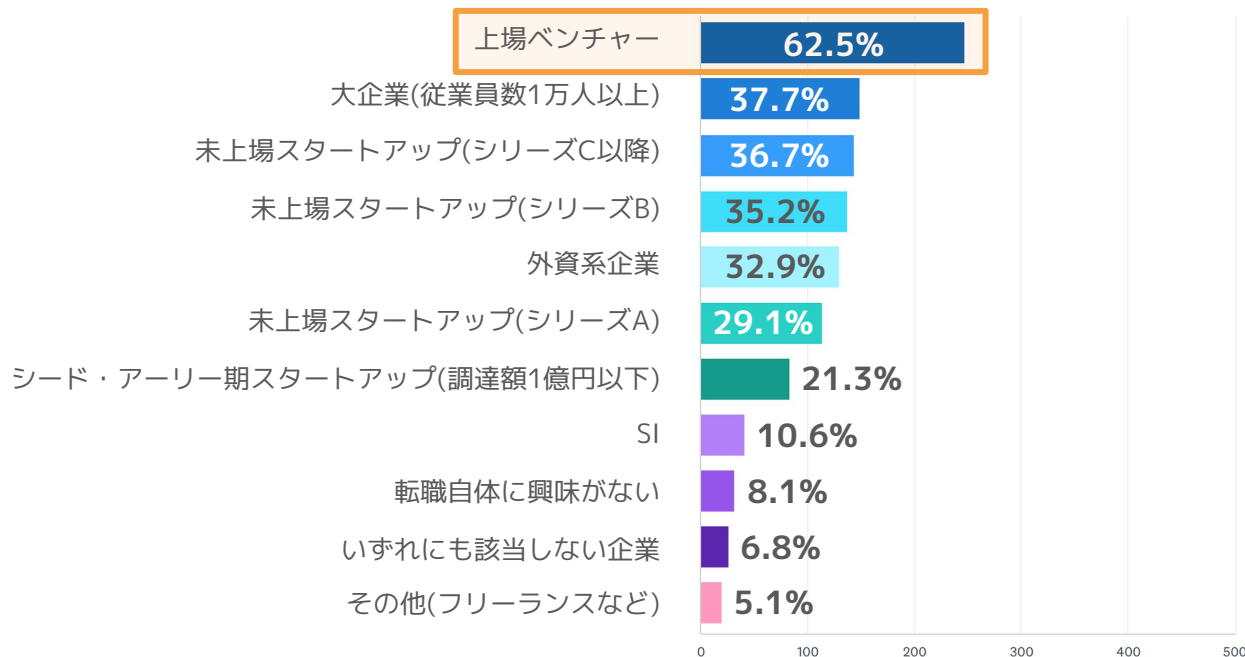
04 人気・トレンド調査



約6割のエンジニアが上場ベンチャーを転職先として前向きに考えている 未上場ベンチャーはシリーズC→B→A→シード・アーリーの順に比率が推移

設問

転職先として前向きに考える企業のタイプとして、
あてはまるものを全て答えてください。(必須、複数回答可)

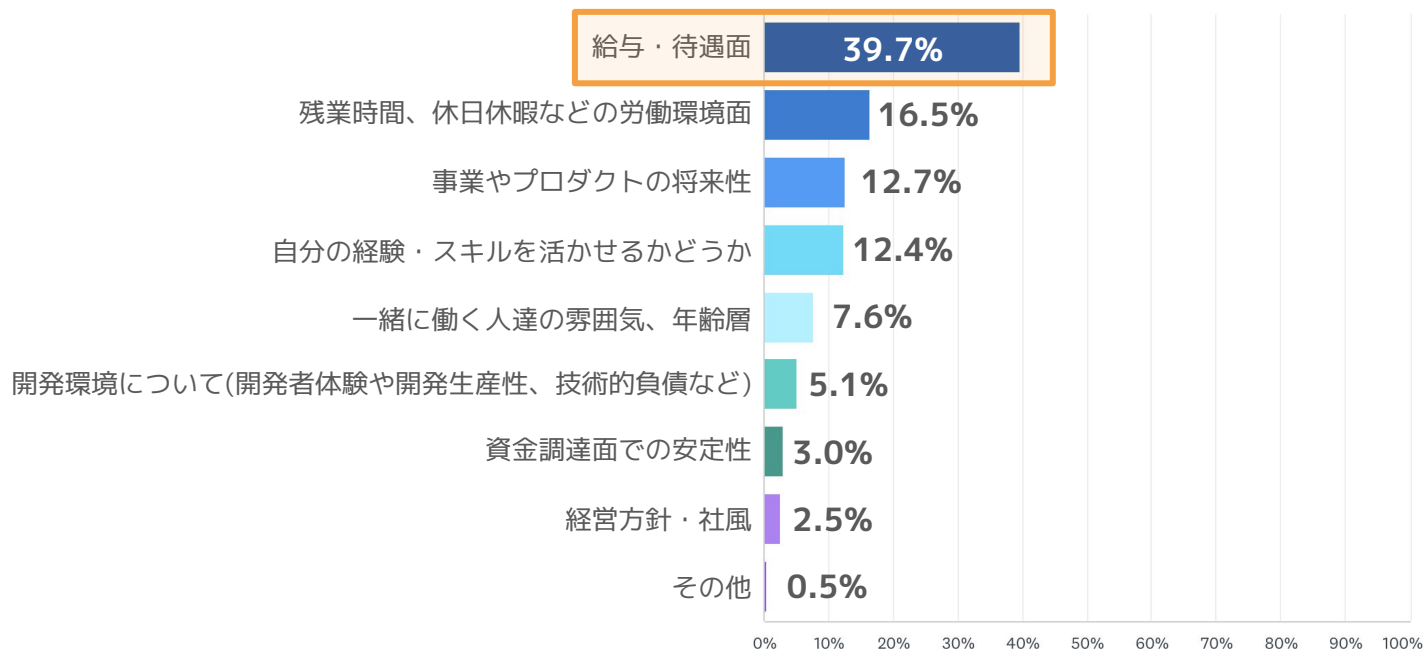


上場ベンチャーや大企業、
シリーズC以降の
スタートアップなど、
資本金や安定性が一定以上ある
企業タイプが人気傾向あり

約4割のエンジニアがスタートアップ転職で解消したい不安要素は「給与・待遇面」と回答

設問

スタートアップ企業への転職を考える上で、
選考段階で最も解消したい不安要素を選んでください(必須)



レイオフの影響を大きく受けずGAFAMには強い憧れが見られる。
2022年9月調査時に続いて選ばれる企業も、世間のトレンドを反映した企業も見られる

設問

働いてみたいと思う会社を具体的に3社あげるとしたらどの会社ですか？（必須）

2023年上半期 エンジニアが働いてみたい企業 20選

Amazon

Amazon Web Services(ジャパン含む)

Apple

freee

Google

LayerX

LINE

SmartHR

クラスメソッド

サイバーエージェント

ソニー

ディー・エヌ・エー

マイクロソフト

マネーフォワード

ミクシィ

メルカリ

ヤフー

ゆめみ

楽天

リクルート

※青文字は2022年9月調査時も20選に選ばれていた企業

技術カテゴリでは「AI・機械学習」「Web3.0」「ChatGPT」が人気。
言語では「Rust」「Flutter」「Go」、業界では「医療」「金融」「エンタメ」

設問

現在、注目している技術や業界、その他トレンドがあれば教えてください(任意、自由記述)

技術

① AI・機械学習

② Web3.0
(メタバース、ブロックチェーン含む)

③ ChatGPT

言語

① Rust

② Flutter

③ Go

業界

① 医療

② 金融

③ エンタメ

05 技術



TOP3は「JavaScript」「TypeScript」「PHP」で2022年2月調査時と大きく変わらず。
今回調査からPythonの用途を分類。中でも最も多い用途はWebサービス開発系

設問

現在、主に業務で使用している言語・技術を最大3つまでご選択ください(必須)

順位 (前回比)	言語	比率	順位 (前回比)	言語	比率
1(→stay)	 JavaScript	41.8%	13(↓3down)	 Swift	2.8%
2(→stay)	 TypeScript	29.6%	13(→stay)	 Dart(Flutter)	2.8%
3(↑1up)	 PHP	18.7%	15(↑1UP)	 Rust	1.8%
4(↑1up)	 Java	18.2%	16(↓1down)	 Scala	1.0%
5(new)	 Python(Webサービス開発系)	16.5%	17(new)	 Python(ブロックチェーン系)	0.8%
6(↑1up)	 Go	15.2%	17(→stay)	 Objective-C	0.8%
7(↑1up)	 Ruby	14.7%	19(↓5down)	 Perl	0.5%
8(new)	 Python(データ分析・機械学習系)	13.9%	20(↓2down)	 R	0.3%
9(↓1down)	 C#	7.8%	20(new)	 Solidity	0.3%
10(↑1up)	 C++	6.6%	22(↓3down)	 Elixir	0.0%
11(↓2down)	 Kotlin	6.1%	22(new)	 Vyper	0.0%
12(→stay)	 C	3.5%	-	その他	13.9%

TOP3は「Go」「TypeScript」「Rust」で2022年2月調査時から変化なし
 同じくPythonの用途を分類。中でも習得・強化ニーズがあるのはデータ分析・機械学習系

設問

今後習得または強化したい言語・技術を最大3つまでお答えください。(必須)

順位 (前回比)	言語	比率	順位 (前回比)	言語	比率
1(→stay)	 Go	37.2%	13(↓2down)	 C++	4.8%
2(→stay)	 TypeScript	36.7%	13(→stay)	 C#	4.8%
3(→stay)	 Rust	32.9%	15(↓5down)	 Java	4.3%
4(new)	 Python(データ分析・機械学習系)	21.5%	16(↓1down)	 Elixir	3.5%
5(→stay)	 JavaScript	19.0%	17(new)	 Solidity	2.0%
6(new)	 Python(Webサービス開発系)	12.9%	18(↓4down)	 Scala	1.0%
7(↓1down)	 Dart(Flutter)	12.9%	19(↓2down)	 R	0.8%
8(↓1down)	 Kotlin	7.3%	19(↓3down)	 C	0.8%
9(→stay)	 Ruby	6.8%	21(↓3down)	 Perl	0.5%
10(↑2up)	 PHP	6.1%	21(new)	 Vyper	0.5%
11(new)	 Python(ブロックチェーン系)	5.6%	23(↓4down)	 Objective-C	0.3%
11(↓3down)	 Swift	5.6%	-	その他	6.3%

1位は「Go」で800万円超。2022年2月調査時から高い平均年収を継続している
「Python(データ分析・機械学習系)」「Ruby」「TypeScript」が700万円超と続く

設問

現在主に業務で使用している言語・技術を最大3つまでご選択ください(必須)

順位 (前回比)	言語	平均年収	2022年2月調査時の平均年収
1(→stay)	 Go	841.3万円	707万円
2(new)	 Python(データ分析・機械学習系)	732.5万円	630万円(※)
3(↑1up)	 Ruby	716.4万円	648万円
4(↑1up)	 TypeScript	715.2万円	635万円
5(new)	 Python(Webサービス開発系)	646.2万円	630万円(※)
6(↑2up)	 JavaScript	614.5万円	587万円
7(↑5up)	 PHP	607.8万円	530万円
8(↑2up)	 Java	594.1万円	561万円
9(↑2up)	 C#	589.5万円	531万円

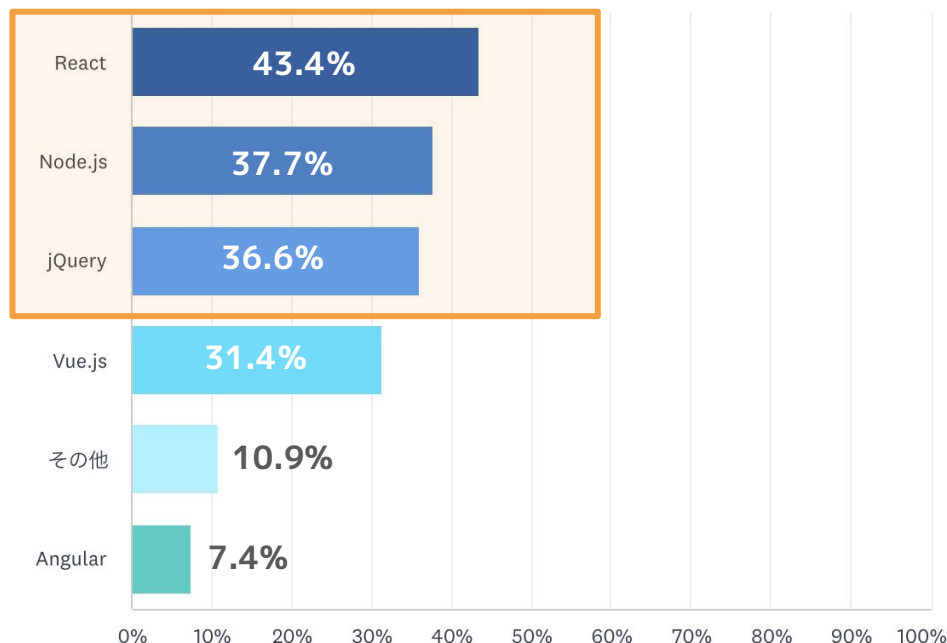
※2022年2月調査時ではPythonは用途別に分類されていないため、Python全体の数値を算出

Note：利用言語・技術において回答がn=30以上あったものに限定して、p7の年収調査結果とクロス分析を実施。平均年収は各選択肢別に想定年収を設定(例:300～350万円⇒325万円)して加重平均にて算出。今回調査から年収1,200万円以上も100万円ごとに「2,000万円以上」まで選択肢を用意

TOP3は「React」「Node.js」「jQuery」 前回調査比較で上位3位の順位に変動が見られている

設問

JavaScript、TypeScriptを選択した方へお聞きします。
使用している技術（フレームワークやランタイムなど）をお答えください。（必須、複数回答可）



前回調査との比較

前回と比較して上位3位に変化が見られた

【2022年2月調査】

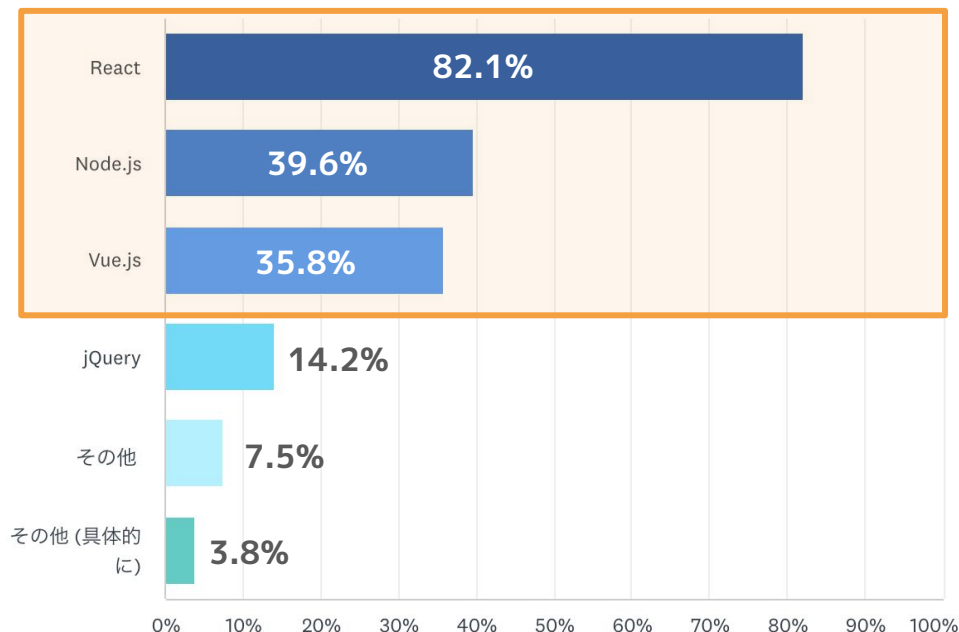
- 1位 Node.js : 45%
- 2位 Vue.js : 44%
- 3位 React : 40%
- 4位 jQuery : 38%
- 5位 Angular : 7%
- 6位 その他 : 12%

「React」が8割超で1位。次点で「Node.js」「Vue.js」 2022年2月調査時と比較して、Reactの習得・強化ニーズが約20%UPしている

設問

JavaScript、TypeScriptを選択した方へお聞きします。

今後習得・強化したい技術(フレームワークやランタイムなど)を最大3つお答えください。(必須)



前回調査との比較

前回調査維持より**Reactが約+20%**と大幅にポイントを上げている

【2022年2月調査】

- 1位 React : 64%
- 2位 Vue.js : 49%
- 3位 Node.js : 46%
- 4位 jQuery : 14%
- 5位 Angular : 8%
- 6位 その他 : 9%

「React」が約650万円で前回調査時から約10万円UP

「Node.js」「Vue.js」は前回調査時より約70万円ほど下がっている

設問

現在主に業務で使用している言語・技術を最大3つまでご選択ください(必須)

順位 (前回比)	言語	平均年収	2022年2月調査時の平均年収
1(→stay)	 React	651.1万円	639万円
2(→stay)	 Node.js	570.8万円	639万円
3(→stay)	 Vue.js	548.8万円	612万円

Note：利用言語・技術において回答がn=30以上あったものに限定して、p7の年収調査結果とクロス分析を実施。平均年収は各選択肢別に想定年収を設定(例:300～350万円⇒325万円)して加重平均にて算出。今回調査から年収1,200万円以上も100万円ごとに「2,000万円以上」まで選択肢を用意

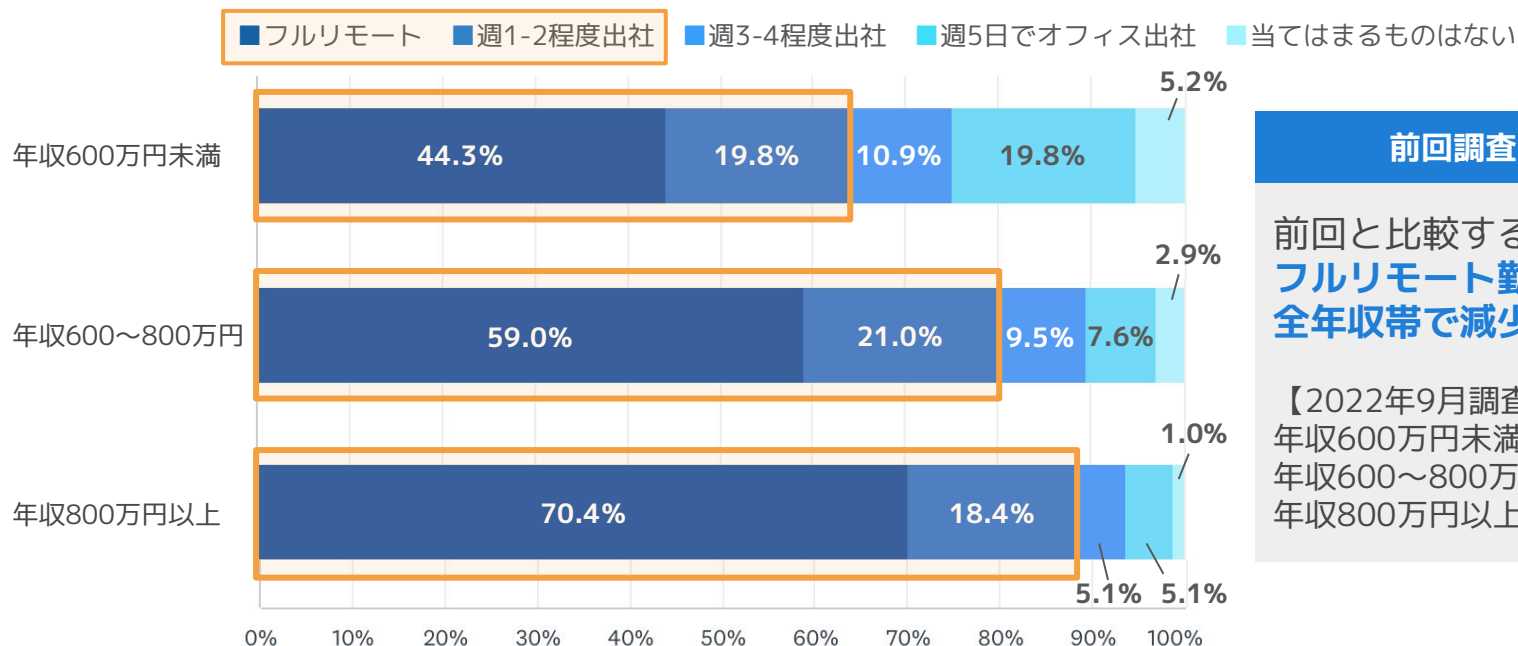
06 年収別調査



年収800万円以上層は現状約9割がリモートメイン勤務(フルリモート約7割)
2022年9月調査時と比較して、フルリモート勤務の割合は減少傾向に。

設問

現在の勤務状況について、当てはまるものを選んでください(必須)



前回調査との比較

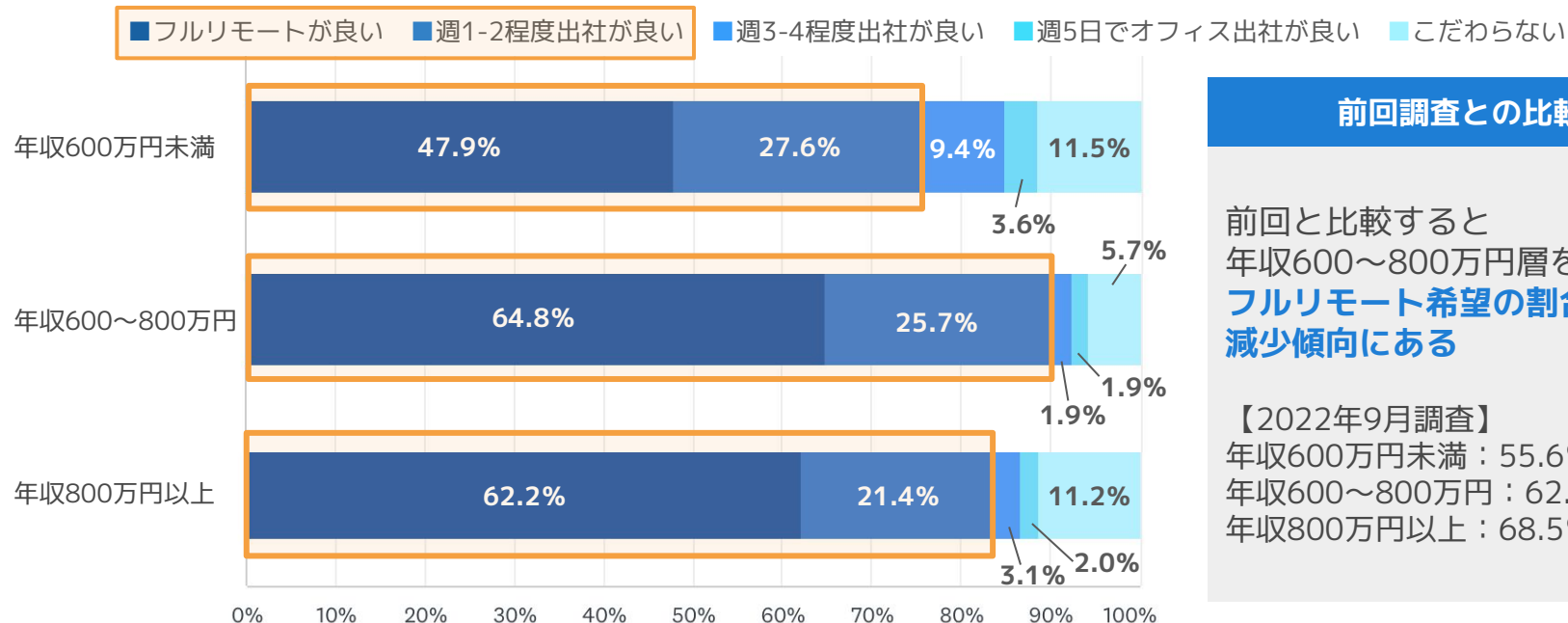
前回と比較すると、
**フルリモート勤務の割合は
全年収帯で減少傾向に。**

【2022年9月調査】
年収600万円未満：55.6%
年収600～800万円：63.9%
年収800万円以上：77.5%

年収800万円以上層は約8割が転職先でもリモートメインを希望 最もリモートメイン希望が強いのは年収600～800万円未満層

設問

転職に対するリモートワークへの考え方について、最も当てはまるものを選んでください(必須)



前回調査との比較

前回と比較すると
年収600～800万円層を除き、
**フルリモート希望の割合は
減少傾向にある**

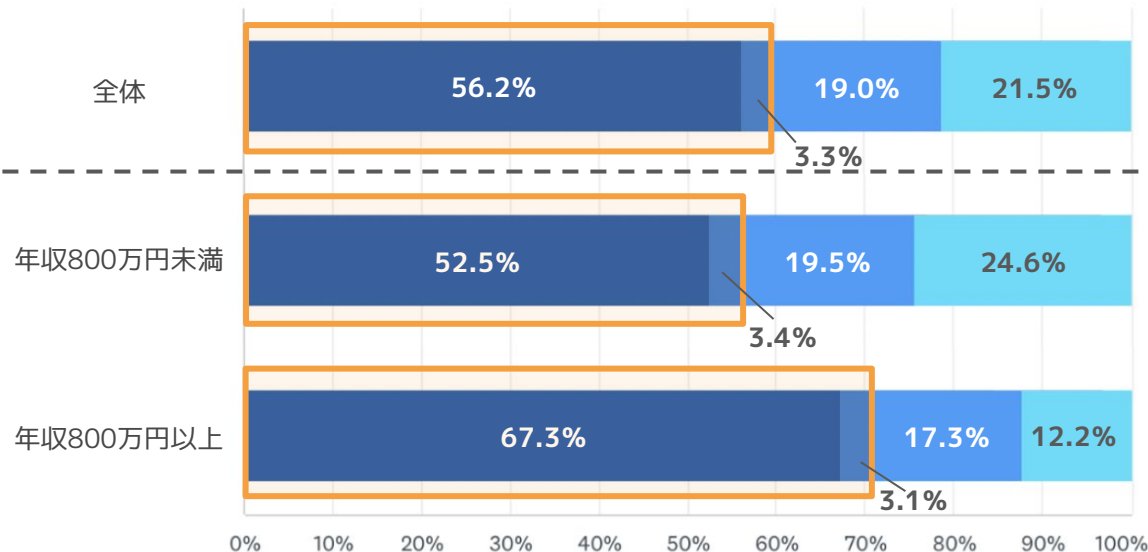
【2022年9月調査】
年収600万円未満：55.6%
年収600～800万円：62.9%
年収800万円以上：68.5%

全体で約6割のエンジニアが海外勤務や海外企業でのリモートワークに興味がある。
また、年収800万円以上層は、800万円未満層と比較して海外志向が強い

設問

海外勤務もしくは、海外の企業に所属or業務委託契約して
日本でリモートワークで働くことに興味がありますか？（必須）

■ 海外勤務or海外の企業のリモートワークをしたい、してみたい ■ 今現在海外で働いているor海外の企業のリモートワークをしている
■ 海外勤務or海外の企業のリモートワークには興味がない ■ 考えたことがない



年収800万円未満層は、
海外への興味あり派が**55.6%**

年収800万円以上層は、
海外への興味あり派が**70.1%**

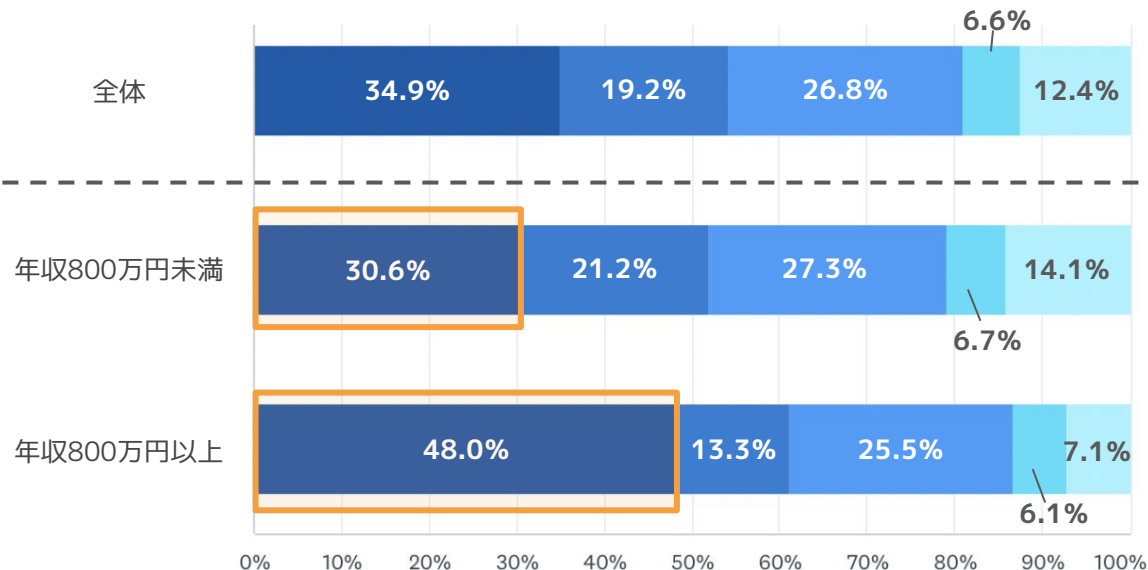
副業に興味があるエンジニアは全体で約9割

年収800万円以上の約5割が副業経験があり、年収800万円未満層より約20%多い

設問

副業について興味・関心はありますか？（必須）

■副業中or副業経験がある ■興味はあるが案件がない ■興味はあるが時間がない ■興味はあるが就業規則上やっていない ■興味はない



前回調査との比較

【2022年9月調査】

「副業経験あり」比率

・年収800万円以上：48.3%

・年収800万円未満：32.6%

【2022年2月調査】

「副業経験あり」比率

・年収800万円以上：42%

・年収800万円未満：30%

07 編集後記



コロナをきっかけにリモートメインの働き方は大前提として根付く。 その上で給与や技術、カルチャーの高水準なマッチングが重視される傾向が強まりそう

いつもFindyをご利用いただきまして、ありがとうございます。今回の調査も数多くのエンジニアの皆様にご回答いただき、非常に興味深い調査結果を得ることができました。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

今回は「コロナ前・コロナ期間中でのエンジニア転職の動向」をテーマとして掲げており、過去調査との比較やコロナがエンジニア転職市場に与えた影響を浮き彫りにすべく、設問を企画・考案させていただきました。

今回の調査で個人的に気になったのは、「コロナ前と現在における所属企業の出社方針について当てはまるものを教えてください」という設問への回答結果です。約6割のエンジニアがコロナをきっかけに出社メインからリモートワークに切り替わっていたことが判明し、今なおリモートワークへのニーズは高いことが見受けられました。

ただ、2022年9月や2022年2月調査時と比較する中で、フルリモート勤務およびフルリモート希望の比率が少しだけ下がっている点を見ると、リモート慣れによるオフラインコミュニケーションのニーズも少しばかり芽生えてきているのかもしれませんが。だからと言って、オフィス出社への回帰を強制するのはNGのようで、オフィス出社への方針切り替えの影響を受けて4割強のエンジニアが転職活動へと踏み切っています。

以上のことから「エンジニアたちの間でコロナをきっかけにリモートワークは"標準装備"として定着化した」といっても過言ではなさそうです。あくまでもリモートメインの働き方の維持は大前提の上で、給与や技術、カルチャーなどがマッチするかどうかが重視される傾向がより強まっていくのではないのでしょうか。ChatGPTをはじめ、新技術が与える転職市場への影響にも引き続き注目し、定期的な市場動向調査を実施したいと思います。

レポート制作
編集者紹介



ファインディ株式会社 竹内 勇稀

大手人材サービス企業2社で約6年にわたり、2000以上の求人制作・採用支援に携わった後、Findyにジョイン。カスタマーサクセスを経験後、エンジニア採用に関する企画・調査・分析、コンテンツ制作、toCマーケティングを担当。